

## 第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：全国少年警察ボランティア協会賞（低学年の部）

タイトル：お父さんのようにかっこよくなりたいな

氏名：佐々木 聡祐（ササキ ソウスケ）

小学校名：秋田県 秋田市立下北手小学校 二年

「もうひっこししたくない。」

きょ年の夏、ついにぼくはお父さんとお母さんに言いました。ぼくのお父さんはけいさつかんなので、ひっこしがたくさんあります。わるい人をつかまえたり、みんなの生かつをまもることのほかに、よりちいきにみっちゃくするためにひっこすこともしごとなのです。だからぼくは今八さいだけれど、もう五回はひっこしています。そのたびに友だちとわかれてしまうので、ぼくはさみしいと思うことが多かったです。けれども、あのあとすぐにお父さんとお母さんが家をたててくれたので、これからはずっと友だちと学校生かつをおくることができるようになりました。

このさく文を書くにあたって、ぼくはあらためてお父さんのしごとについて考えました。とまりきんむや、きゅうなよび出し、ひっこしなどがあってとても大へんなのに、どうしてお父さんはけいさつかんになったのだろう。

「ちいきのみんなのやくに立ちたいからだよ。大へんだとしても、じ分のしごとにはほこりをもっているからがんばることができるんだよ。」

お父さんがこたえてくれました。それを聞いて、ぼくはかっこいいなあと思いました。ぼくはだれかのやくに立っていたり、毎日がんばれているのか、じしんがありません。そんなぼくに、お父さんが言いました。

「お父さんがいないあいだは、そうすけがお母さんと弟をまもるんだよ。」

ぼくは「りょうかい」のいみをこめて、けいれいをしました。今どからは、お父さんのいどうによってはたんしんふにんになるからです。ぼくはあたらしい目ひょうをたてることにしました。べんきょうとお手つだいを今よりもがんばることで。たくさんがんばって、お父さんのようにかっこよくなりたいです。

さい後に、ちいきのみんなとぼくたち家ぞくのためにしごとをがんばるお父さんへ。

「毎日おつかれさま。家をたててくれてありがとう。大すきだよ。」